



Data	2023-69
監督・脚本:	シャーロット・ウェルズ
出演:	ポール・メスカル／フランキー・コリオ／セリア・ロールソン・ホール

👁️👁️ みどころ

31歳の父親と11歳の娘がトルコのリゾート地でひと夏のバカンスを！それが実現した背景は？手持ちのビデオカメラで撮影した、そんな映画への主演でなぜアカデミー主演男優賞の候補に？

近時の邦画は“何でも説明調”だが、本作ほど何も説明してくれない映画は珍しい。ブルース・ウィリス主演の『シックス・センス』（99年）では観客の感性が試されたが、本作もそう。私には十分読み解けなかったから星3つだが、“ネタバレ”評論の評価は軒並み高い。しかして、あなたの鑑賞眼は？あなたの評価は？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■主演男優賞候補作品だが、私にはイマイチ！■□■

第95回アカデミー賞の主演男優賞は『ザ・ホエール』（22年）のブレンダン・フレイザーが受賞した。『エルヴィス』（22年）（『シネマ51』26頁）のオースティン・バトラー、『イニシエリン島の精霊』（22年）（『シネマ52』31頁）のコーリン・ファレル、『生きる LIVING』（22年）（『シネマ52』36頁）のビル・ナイもそれぞれ熱演だったが、私の評価では、やっぱり『ザ・ホエール』のブレンダン・フレイザー。そして今日、5作のノミネート作のラストとして『aftersun アフターサン』を鑑賞し、主演のポール・メスカルが主演男優賞にふさわしいかどうかを考えたが、私の評価では到底無理だ。

私は本作を作品としても評価できないし、ポール・メスカルの演技も主演男優賞には、とてもとても……。もともと、ネット上の“ネタバレ”を含むさまざまな評論では本作を高く評価する声もあるので、評価はいろいろだが……。

■□■ビデオカメラに映る父親は？娘は？■□■

高度経済成長が始まり、不動産、株、ゴルフ会員権を“三種の神器”とするバブル経済

が頂点に達した昭和後半の日本は、すべての面で豊かさの追求にまっしぐらだった。そんな中で、家庭用ビデオカメラも普及したが、スマホ全盛時代の今、それを使っている人はHow many？

そんな時代状況にもかかわらず、シャーロット・ウェルズの監督初作品たる本作は、31歳の父親カラム（ポール・メスカル）と11歳の娘ソフィ（フランキー・コロオ）の2人が、トルコのリゾート地でひと夏のバカンスを過ごす風景が、2人のたわいのないビデオカメラの撮影風景から始まる。そこでは、ソフィがカラムに対して「11歳の時に想像した31歳ってどんなだった？」とインタビューしていたが、なぜそんな質問を？また、その答えはそこではされないまま突然撮影が打ち切られたが、別のシークエンスで、カラムはダイビングのインストラクターに「30歳まで生きられたことに驚いている」「40歳まで生きられるとは思えない」と打ち明けていたから、カラムの本心は？

■□■父娘のひと夏のバカンスは？そこに見る不安は？■□■

近時の邦画は“何でも説明調”が主流だが、本作ほど何も説明してくれない映画は珍しい。本作についての貧しい情報をかき集めたところによると、円満に離婚が成立し、今はロンドンで暮らしている父親カラムと、エジンバラで母親と暮らしている娘ソフィの2人は今、ひと夏のバカンスを楽しむためにトルコのリゾート地にやって来ているらしい。

そこでは、ゆったりと流れる時間の中でスキューバダイビングやプール、そしてパーティー、カラオケ、ゲーム等々を楽しむことができるはずだが、冒頭から「ベッドが1つしかない」等のトラブルが……。さらに、部屋の中でカラムがけったいな動きをしているのは、どうやら極拳らしいことが後にわかるが、骨折しているらしい右手は痛々しいし、会話の中でもしばしばカラムが仕事や経済面で困難に直面していることやうつ病に悩んでいることが読み取れるから、2人のひと夏のバカンスは不安でいっぱい……？

平山みきの1972年のヒット曲、「真夏の出来事」では、「悲しい出来事が起こらないように」と歌われていたが、そこで言う「悲しい出来事」とは一体ナニ？また、山口百恵の1974年の大ヒット曲、「ひと夏の経験」では、「女の子の一番大切なものをあげるわ」と歌われていたが、「女の子の一番大切なもの」とは一体ナニ？さらに、「誰でも一度だけ経験する誘惑の甘い罠」とは一体ナニ？それが大きな論争を呼んだ（？）が、さて本作に見るひと夏のバカンスでは、一体何が……？

■□■物語の理解は困難！音楽の理解も困難！■□■

31歳の父親と11歳の娘との“ひと夏のバカンス”を、ビデオカメラをふんだんに使いながら描く本作は、どうやら、それから20年後、31歳になったソフィ（セリア・ロールソン・ホール）の視点から、若き日の父親と過ごした20年前のひと夏の思い出を振り返っているものらしい。ブルース・ウィリス主演の『シックス・センス』（99年）では、観客が同作のポイントとされている“ある事実について気づくか”が大きなテーマとされたが、本作もそれと同じように、観客が本作の“そんな基本構造について気づくか”が1つの

ポイントになる。

私もある時点でそれらしいことには気づいたが、カラムが1人で海の中に入っていくシーンは「こりゃ、てっきり自殺!」と思っていたのに、実はそうではなかった。また、ソフィが1人でティーンエイジャーの男の子たちの“遊び”に引きずられていく時は、「こりゃヤバイ!」と思ったが、これも大事には至らなかった。31歳の父親と11歳の娘が過ぎずひと夏のバカンスの展開は不安いっぱいだが、どうやらその展開は74歳の私には読み切れないらしい。しかも、本作では、ホテル主催のカラオケ大会に堂々と1人で舞台上がっていくソフィの積極性が目立つし、そこで歌った曲にはそれなりの意味があるらしいが、私にはそれが全く理解できない。さらに、本作は全編を通じてさまざまな楽曲で彩られているが、これらの楽曲は私の知らないものばかりだから、その意味もさっぱりわからない。したがって、本作は第95回アカデミー主演男優賞ノミネート作品だが、私にはイマイチで星3つ。

2023（令和5）年6月9日記